

平成24年度後期芦安中学校学校関係者評価書

平成25年1月28日

芦安地区学校関係者評価委員会

委員長 松本 賢司



1 経過

○第2回芦安地区学校関係者評価委員会

〔日時〕平成25年1月21日（月）19時30分～20時45分

〔場所〕芦安中学校多目的ホールにて

2 参加者

No.	氏名	役職名	備考	
1	秋山 栄男	芦安子を守る会会長		
2	伊東 隆雅	芦安地区保護司，芦安区長会長，白雲荘経営		
3	伊東 義巳	木工指導者，民宿よしみ経営		
4	清水 実	南アルプス市議会議員		
5	松本 賢司	芦安中学校PTA会長	委員長	
6	深澤 信臣	芦安小学校	校長	
7	竹内 幸人		教頭	事務局
8	河住 悦久		教務主任	
9	興水 哲男	芦安中学校	校長	
10	小尾 一彦		教頭	事務局
11	伊藤 浩一		教務主任	

3 学校側から提案された内容

〔後期中学校自己評価の分析と改善方策〕

- (1) 後期（12月）教職員アンケート結果
- (2) 後期（12月）生徒アンケート結果
- (3) 後期（12月）保護者アンケート結果
- (4) 芦安中学校後期自己評価書

4 協議された主な内容

- (1) 後期アンケート結果への質疑
- (2) 自己評価の結果の内容についての検証
- (3) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策についての検証
- (4) 今後の芦安地区の教育のあり方について

5 評価委員会で出された主な意見

- (1) 芦安中学校の後期学校評価及び今後の小中学校教育の推進について
- ・学校で英会話をやることで、子どもたちは変わってくる。小学校の子どもを見ていると、覚えが早い。

小学校、中学校の早いうちから外国人と英語をふれあうことで英会話の表現力が伸びてくると思う。今後は、この地域の子どもが伸びているということを情報発信して欲しい。

- ・芦安の子どもがどれだけ伸びているかを外に出していくことが大切である。ホームページや地域行事の中で、その成果を紹介や発表して、「芦安に行ったらこんなことができる」と思われるように、積極的な姿勢を学校に持ってほしい。

- ・全体の学力向上は学校としての課題だと思うが、芦安に来たらこんなことが伸びるという意味で、子どもたちにいろいろなことを挑戦させてほしい。

- ・家庭学習は保護者の問題でもある。家庭学習が定着しないのは、保護者の責任でもある。

- ・これだけの規模の学校で、これだけ多くの行事をやる中で、子どもたちはひねくれていないと思う。

- ・昔は、先生は怖いものだと思っていた。今は、子どもたちと良い雰囲気を創り出そうとしている。学力の定着に向けて、補習学習は大変だと思うが、ぜひ、続けて欲しい。

- ・芦安の学校は、先生も子どもも少ないので、他の学校に比べて、先生と子どものふれあいの時間が多くある。しかし、先生方が子どもたちと友人化、お友達感覚にはなっていない。先生と子どもの立場はわきまえて、指導すべきことはしっかり指導してほしい。

(2) その他

- ・芦安地区は、市内全域から通学できる学校ということ、今回の英会話科のことで知った人が多かった。地域の人は知っていても、他の地域の人は知らなかったということなので、もっと情報を発信していくことが大切である。

- ・芦安地区にとって、学校教育は重要な問題である。英会話科を通して、人数を増やすということであるが、通学バスや住宅等の条件をよくすることも大事なことである。

- ・どんどん焼きを1月14日にやったが、天候が悪かったこともあり、小中学生や保護者がだれも来なかった。地域として関心を持たない人が多くなってきている。学校でも、何らかの形で連絡をして、地域行事を大事にして、生かして欲しい。

6 評価・分析

芦安中学校は、「教職員アンケート」「児童・保護者アンケート」やPTA理事会での話し合い等を踏まえ、学校運営や教育活動の達成状況を把握した上で、課題や成果・改善策を分析・整理している。評価が高かった項目は今後も伸ばしていき、まだ不十分の評価項目については改善を図ることが必要である。児童や保護者の願いを踏まえ、職員の共通理解のもとに教育目標の具現化に向けて取り組んでほしい。今後も全職員で一体となり、学校教育目標の「主体的で実践力のある芦中生」の育成の取り組みに推進してほしい。

特に、以下のことについては重点課題として取り組んでほしい。

- (1) 来年度から英会話科の授業が始まるが、それらも含めて芦安小中学校のよさを外部にしっかり情報発信してほしい。

- (2) 生徒数や教員数が減少する中で、一人ひとりの負担は大きい。子どもたちが主体的に活動できるための各種行事等教育活動の見直しや改善を図ってほしい。

- (3) 学力向上は、芦安小中学校の大きな課題の一つである。今後も基礎学力の定着や学力の向上をめざし、「授業改善や少人数を活かした授業」「補習学習の充実」「小中連携して学習習慣や学習規律等の習得」「家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化」を図ってほしい。

- (4) 来年度は、小中学校合同 PTA になる。また、小中連携しての特色ある学校づくりへの地域の期待も大きい。9年間を見通した教育活動の推進と小中学校、保護者、地域の連携協力による学校づくりを進めてほしい。